

安らかに眠って下さい

過ちは繰り返しませぬから

今年八月六日が近づくにつれ、この言葉が心に浮かんで仕方なかった。…過ち

2011年 みんなの平和宣言

66年前の今日 1発の原子爆弾が 広島を焼き尽くしました
そして今 福島の4基の原子炉から漏れ出した放射能が
ふるさとの野や山に降り注ぎ
世界につながる川や海に流れ込んでいます

「核と人類は共存できない」
あの地獄を生き延びた人間の叫びが
「核抑止」と「核の平和利用」の言葉でかき消され
声を奪われたヒバクシャを世界各地にうみだしています

「過ちは 繰り返しませぬから」
平和公園の碑に刻まれた 主語のない誓いは
核による「平和と繁栄」を 国策にすることを許し
私たちは「放射能汚染」の 加害側にたっています

地球の恵みの中で 私たちは育ちました
そして科学と合理性の名の下に 地球をむさぼり
進歩のためにと 競い合いました

歩んできた道を振り返り 被爆地ヒロシマから 私たちは宣言します
地球を汚し 命を奪い 人間を破壊する核/原子力を 私たちは拒否します
暴力に仕える科学や法を 弱いものを犠牲とする文明を 私たちは拒否します
私たちは今ここから
地球のすべての生命が 共に在る未来に向かい 歩き始めます

2011年8月6日
原発・核兵器なしで暮らしたい人々

は繰り返されたのではないか…、あの言葉は何だったのだろうか…、過ちとは何だったのだろうか、誰が過ちを起したのだろうか…、誰が繰り返しませんと言っているのだろうか…、そもそも広島長崎で起きたことは伝えられているのだろうか、ただ何となく大変なことが起きたと、もう二度とこんな事が起きないでほしいと、おもってきただけだったのではないか…。福島の放射能汚染を起してしまった私たちの社会はもうどうの昔に過ちを繰り返していたのではないか。

これまで六日に広島島の地に立って、感じたのは怨念のようなものだった。被爆して地獄の苦しみの中亡くなっていた人々の思いを受け止めていなかった自分の姿勢があったからだと思う。だから鎮魂のため祈っていたのかもしれない。怖いからだ。

今年少し違う気がした。もう一度考えなければ…とにかくその地に立つて。

八時半に原爆ドームの前に着いて、ものものしい雰囲気は圧倒された。ドームの周りには様々な団体が集まって、それぞれの表現をしている。その周りは警察官で固められている。九時には大谷派の非核非戦参加者と合流する。

ちよつと座る所を見つけて腰を下ろすと、ふと目の前にネットで見たいところのある、福島の発言するお母さん佐藤幸子さんが立っているではないかー迷わず声を掛けてお話しした。力強い発言に感謝し、つながっていきたいことなど伝えた。その上なんと肥田舜太郎さんの話が午後にあることを教えてもらった！午前中は教区のフィールドワークに参加し、話し合いを断念して駆けつけた。なぜかビデオカメラを貸してもらえ写すことにもなった。(Tさんの手によってインターネットで見るようになっていく)。その後、すぐ下の階でやっていた「原爆と戦争展」によって、衝撃的な戦争の実態に出会った。今の私たちの国の惨状が遙か昔の戦争勃発からずっと繋がっている事が見渡せる展示だった。

如來の悲しみと願いに導かれ、出会わせていただき、数えきれない戦争の犠牲につながった。なむあみだぶつ

↑ドーム前で市民により宣言された言葉

惟蓮